

「公平な社会」を創るために

大月市立猿橋中学校2年 白川 夏帆

「税金が高い」と大人は嫌そうな顔をして言う。きっと私も大人になったらそんな事を言っていると思う。では、なぜあまり良い印象のない税金があるのか。そう考えてみてでた答えは「公平な社会」を創るため。今の日本では、子供のいる家庭といない家庭、介護を必要としている人がいる家庭といない家庭では対等な暮らしができているとは思えない。このことから、今の日本は「公平な社会」を創れているとは言えない。では、どうすれば「公平な社会」を創っていただけるのだろうか。

「公平な社会」とはどんな社会なのか。例えば、介護をする人の体力や経済、精神的な負担が無い社会。介護をするために職を変えたり辞めてしまう人や、介護のために本来受けるはずの教育を受けられないヤングケアラーがいる。さらには、介護うつになってしまう人がいる。この人たちに合った支援を提供することも「公平な社会」を創ることの一つだ。その支援とはどんなものがあるのか世界をみてみた。

世界には日本には無い福祉制度がある。例えば、フィンランドでは介護をする親族へのサポートとして給付や休暇が与えられる。この支援は介護をする人の負担を減らせる。また、フィンランドには他にも様々な福祉制度がある。教育の面では、給食費や小学校から大学までの学費が無料だ。このような制度は「公平な社会」を創ることに繋がる。ところが、この制度を行うには沢山のお金が必要で、そのお金を賄う税金が必要だ。そのため、フィンランドは日本よりも国民が負担する税金の額が高い。消費税は二十四%と日本の二倍以上にもなっている。

このように、税金があることには理由がある。税金が高いということは、その分国民が豊かな暮らしができるように仕組みや工夫がされている。そのため、税金を上げれば「公平な社会」に近づくと考える。けれど税金を今よりも上げてしまうと生活が苦しくなってしまう人がでてくる。現状は滞納者がいたり、税金に対する不満も多い。税金は上げすぎても下げすぎても困る人がいる。そのバランスは重要だが、正解がないから難しいことだ。

私は税金のことについて考えたり調べたりしてみて、税金と「公平な社会」には深い繋がりがあることが分かった。そして、私が今中学校に無料で通えているのも、教科書を無料で使えるのも税金のおかげだ。沢山の人のお金で使える物や場所は数多くある。その事を理解して、大事に使うことも税金と付き合いあっていくうえで大切なことだ。また、税金に不満ばかりを言うのではなく、税金はなくてはならない存在だということを頭に入れておくことも重要だ。しかし、税金や社会の制度にはまだまだ沢山の課題がある。私達はその事に他人事になるのではなく、向き合っていく必要がある。「公平な社会」を創るために。